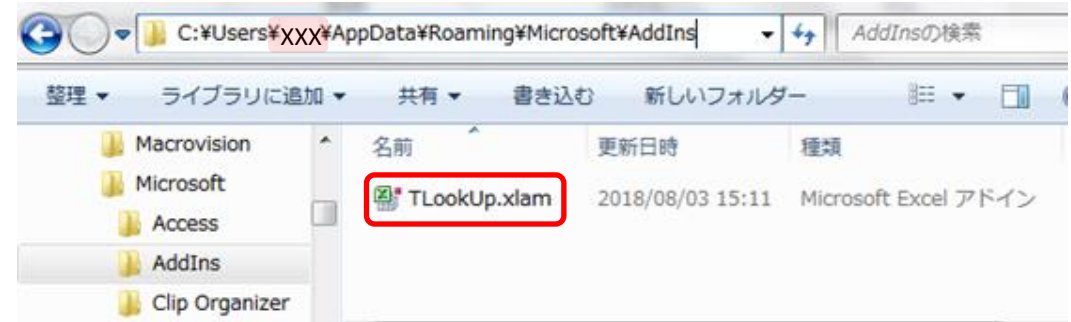


## 【1. 初期設定の説明】

### ★アドインの有効化

- ①同梱されているアドインファイル (TLookUp.xlam) を  
ユーザ環境のアドインフォルダに置きます。

C:\Users\ユーザー名\AppData\Roaming\Microsoft\AddIns  
(ユーザ名はPC環境によって変わります)

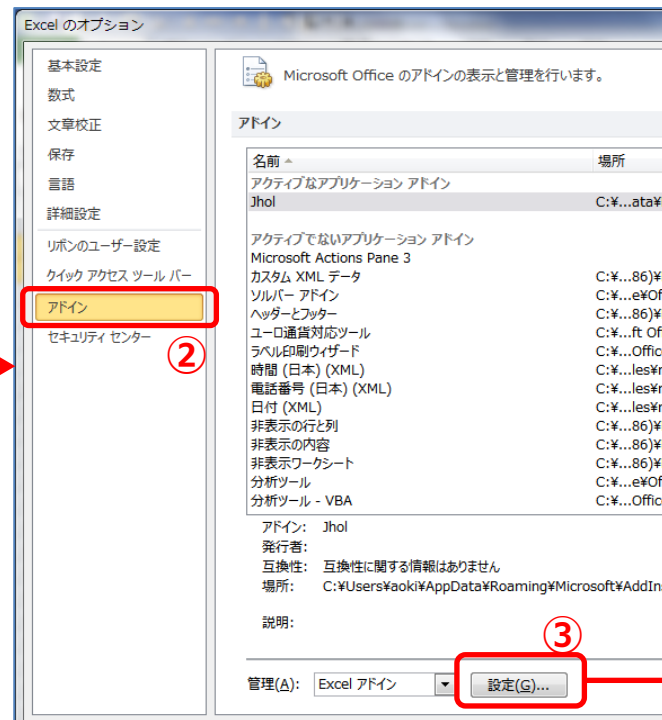


- ②Excelを開いてアドインを追加します。

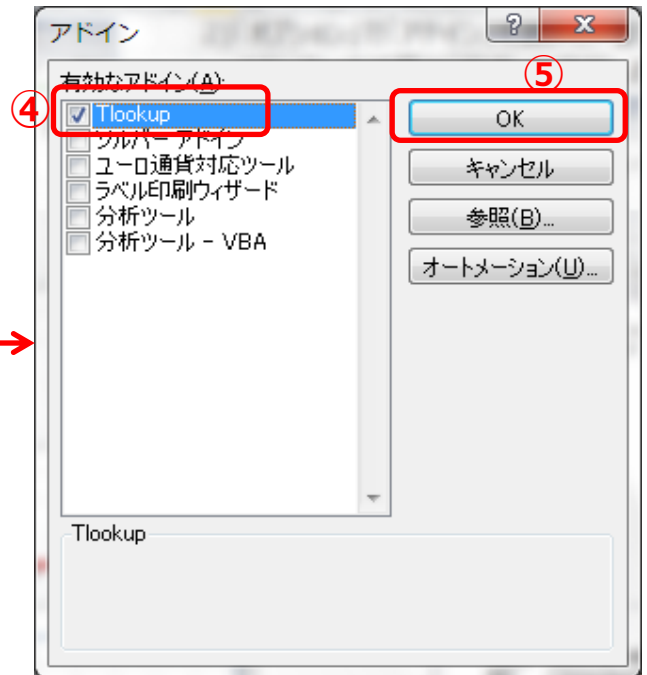
- 1)「ファイル」タブ→「オプション」を選択します。



- 2)「オプション」で「アドイン」を選択し「管理：Excelアドイン」  
となっている状態で「設定」を選択します。



- 3)「TLookUp」にチェックを入れ、OKをします。



## 【2. 関数の説明】

### ①関数の書式

**=TLookup (検査値、範囲、検査値タイトル、結果値タイトル)**

検査値：検査値タイトルの列で検索する値を指定します。(必須)

範囲：目的のデータが含まれるセル範囲を指定します。先頭行はタイトルとします。(必須)

検査値タイトル：検索する列のタイトル名を指定します。(必須)

結果値タイトル：結果を返す列のタイトル名を指定します。(必須)

### ②使用例

「B4」に2018/10/9、「C4」にタイトルE、「D4」にタイトルAを入力して、「F4」に「=TLookup(B4,Sheet2!\$B\$2:\$F\$12,C4,D4)」の関数を入力するとタイトルE列の2018/10/9に該当したタイトルA列の値が表示されます。検索できない場合は、空白が表示されます。

F4					
=TLookup(\$B\$4,Sheet2!\$B\$2:\$F\$12,\$C\$4,D4)					
A	B	C	D	E	F
	検査値	検査値タイトル	結果値タイトル	結果値	
	2018/10/9	タイトルE	タイトルA	10	
			タイトルB	11	
			タイトルC	12	
			タイトルD	13	
	52	タイトルC	タイトルA	50	
			タイトルB	51	
			タイトルD	53	
			タイトルE	43386	

結果値の書式が日付の場合は、シリウス値が返ってきます。受取り側のセルも同じ日付書式にします。

任意のセル範囲に検索するデータのテーブルを作成します。先頭行には、必ず各項目のタイトル名を入力します。(重複不可)

B2					
タイトルA					
A	B	C	D	E	F
1	タイトルA	タイトルB	タイトルC	タイトルD	タイトルE
2	10	11	12	13	2018/10/9
3	20	21	22	23	2018/10/10
4	30	31	32	33	2018/10/11
5	40	41	42	43	2018/10/12
6	50	51	52	53	2018/10/13
7	60	61	62	63	2018/10/14
8	70	71	72	73	2018/10/15
9	80	81	82	83	2018/10/16
10	90	91	92	93	2018/10/17
11	100	101	102	103	2018/10/18
12					
13					
14					

引数に文字列を直接入力しても同じ結果になります。

F14					
=TLookup(52,Sheet2!\$B\$2:\$F\$12,"タイトルC","タイトルA")					
A	B	C	D	E	F
	検査値	検査値タイトル	結果値タイトル	結果値	
				50	